

【優 秀 賞】



氏 名 TAGUCHI MERA BASILONIA
(タグチ メラ バシロニャ)

国・地域 フィリピン 

在日期间 2年4ヶ月

学 校 九州日本語学校

タイトル : 日系人に生まれて

私の名前は田口メラです。漢字で田口、カタカナでメラと書きます。私のひいおじいさんは山口出身で、第二次世界大戦が始まる前に、海外労働者としてフィリピンに行きました。私は日系4世です。

皆さんは日系人がどんな生活を送ってきたか知っていますか？

私が中学生の頃、歴史の先生がこう言いました。

「第二次世界大戦のときに、日本軍はアメリカと戦うためフィリピンに来ました。戦争が深刻になると、日本軍は誰でも殺して、フィリピン人の権利を奪いました。」

すると、同級生の一人が手を挙げて、私に聞きました。

「メラさん、あなたのひいおじいさんもそういう事をしたの？」

日系人の人生を思うと、私は胸が痛みます。戦争中、日本軍に苦しめられたフィリピン人たちは、日本人や日系人を見つけると復讐しました。いじめたり、殺したり・・・日系人たちは生きるために、自分の身元を捨てました。日本風の名前を変え、家族の大切な書類も全部燃やしました。その頃、ひいおじいさんのようにフィリピンで働き、フィリピンで家族をもった日本人には、2つの選択肢しかありませんでした。家族を捨てて、日本に帰るか。それともフィリピンに残って、殺されるか。でも、ひいおじいさんの夢は一つだけでした。家族と一緒に日本に帰りたい。ひいおじいさんは、身元を隠したまま、その日を待ちました。そして、結局、殺されてしまいました。4人いた子供たちは孤児となりました。ひいおじいさんが残した財産を売り、長い時間、身元を隠し、遠い山の辺りで暮らしました。勉強なんて出来ない生活でした。子供たちが忘れずに覚えていたのは、父親の名前と小さい時に聞いた歌でした。

「春が来た。春が来た。どこに来た。山に来た。里に来た。野にも来た。」

現在、フィリピンと日本政府は関係を改善し、日系人の権利を守る約束を交わしました。10年、20年、30年、調べぬいて、日系人の身元を一人一人明らかにしています。

私達も、希望がなくなるほど待った末、やっと身元を取り戻しました。8年前、ようやく「田口」という名字を持つことが出来るようになったのです。

私たち家族は、今、鹿児島に住んでいます。鹿児島に来たばかりの頃は、日本語が話せないし、友達もなかなかできませんでした。新しい生活に慣れずに、とても不便でした。悩んだり、落ち込んだり、複雑な気持ちでした。「なぜ、戦争なんて起きたのだろう？なぜ私は日本にいるのだろうか？この世界のどこに、私の居場所があるのだろうか？」そんな時、思い出しました。

「メラさん、あなたのひいおじいさんも、そういうことをしたの？」

あのとき、私は何も言えませんでした。すると、他の人が立って言いました。

「それは違います。1人の人が悪いことをするからと言って、皆が同じようなことをするとは言えません。」

彼は、私に笑顔を向けました。彼のおかげで私は救われました。

この世界のどこにいたら良いのか？最初は、私が日本にいることはひいおじいさんの夢だから、ここにいるのが幸せなのだと思おうとしました。でも、今は、どこにいても、私は幸せになれると思っています。フィリピン人でも、日系人でも、私は私なのです。どこにても、私は私らしく生きればよいのです。

ご清聴、ありがとうございました。

